



株式会社 ままこや
代表取締役 柿崎 護さん

GAP認証酒造好適米と飼料用米を栽培
金山町を拓いていく若い力



経営のきっかけ・こだわり・思いをお聞かせください。



「農業は面白い！」と語る柿崎代表

4人兄弟の3番目で、父の後を継ぎ大学卒業後すぐに就農しました。

父の代からずっとメインは酒造好適米（出羽燦々、美山錦）の栽培です。GAP団体認証を取得している金山農協酒米研究会に所属しており、細やかな栽培管理に努めています。

ほかに飼料用米（夢あおば）、主食用米（つや姫、はえぬき、ヒメノモチ）も取り入れた水稲生産一本の経営です。

規模拡大を図るため、平成28年に法人化し、（株）ままこやを設立しました。

「ままこや」の由来は、家族の名前から一字ずつ取り繋げたもので、母が命名しました。こちらの方言で「まま」とは米のことです。米生産を専門とする当社らしいと気に入っています。



農業の魅力について
お聞かせください。

農業は、取組の工夫と技術の効果をダイレクトに実感できるのが魅力です。

田植えは、密苗播種・移植に取り組むようになってから、育苗資材（育苗箱、培土、ハウス資材）がぐっと減りました。コスト減のメリットのほか、育苗箱の運搬にかかる時間も減るため、効率良く作業ができます。

また、農業用ドローンを導入し、防除・施肥等がオールインワンで行えるようになりました。ほ場の稲の状況に応じて、自在にフライトし、適切な栽培管理を実施しています。

最近では、農業機械の性能向上がめざましく、農作業が非常に面白くなってきたと感じます。



今後の経営、目標や夢、
将来展望をお聞かせください。

地域では高齢化による離農が進み、農地の委託が多くなっています。基本、頼まれた農地は引き受けることとしており、耕作地は年々増えています。

耕作地の拡大にあわせて、雇用を考えるようになりました。今後は、一番難しいといわれる人材育成を頑張りたいと思います。



様々な農機がずらりと並んでいる「ままこや」作業場



東北農政局 山形県拠点 地方参事官室

TEL:023-622-7231/FAX:023-622-7256

